

レイアウト一覧

川越文化を伝承し、次世代に誇りを持ってほしい――

「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」と唄われるほど、東海道最大の難所だった大井川。川越しのため、さまざまな文化が発展しました。大井川輦台越保存会の会長を務める白井さんは、その文化を次世代に伝えるために活動しています。

【川越文化と共に】

河原町で生まれ育った白井さん。川越文化は、子どもの頃から身近な存在でした。

「戦後、川越しまつりが復活した時は、町民総出で輦台を担いだものでしたよ。この地域で育ったから、そういう文化を残すのが当たり前だと思っていました。だけど、担ぎ手は次第に減少。危機感を抱いた我々は、昭和60年に大井川輦台越保存会を設立しました。その後、河原町だけではなく、他の町内からも有志の人たちに参加してもらって、今は約50人の会員がいます」



【次世代に伝えるために】

台越しは、平成17年を最後に実現していません。保存会の会員の減少や高齢化、資金不足や大井川の流量が減少したことなどが原因です。

地域のイベントや学校の通学合宿で、子どもたちに体験してもらっています。男の子は、フレンドシップをつけてミニ輦台を担ぐと『重い!』と驚きます。意外と面白がって、みんなやりたがりますよ」

輦台の担ぎ手だけでなく、文化継承の担い手をも失うこと、何よりも寂しいと白井さんは話します。

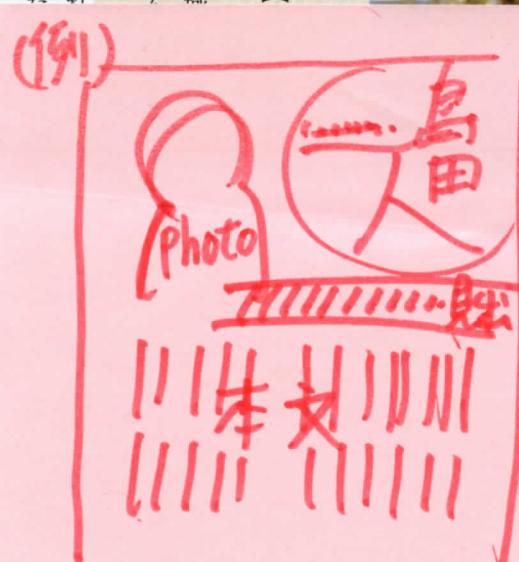
保存会 会長
平さん(河原二丁目)

古里には、こんなに珍しい文化がある』という誇りを持つてもらいたいですね。近頃は、川越人足が履いていた『權三わらじ』の復活に取り組んでいるんですよ。今は

いいのですが、何よりも寂しいと白井さんは話します。

「ぜひ、皆さんには『自分の古里には、こんなに珍しい文化がある』という誇りを持つてもらいたいですね。近頃は、川越人足が履いていた『權三わらじ』の復活に取り組んでいるんですよ。今は

通学合宿で、輦台越を体験する児童と指導する白井さん(左端)



「今の子どもたちは、本当に大井川を輦台で渡っているところを見たことがないでしょ。昔はそんな文化があつたということも、知らない子が多い。だから、少しでも多くの人に知つてもらおうと、



Shimadajin File #88

島田人 Story

二の位置は
少しもつたりしない
Goodなロゴ!

Shimadajin File #88